

## リカレント教育における Canvas の活用 —京都大学私学経営アカデミーにおける LMS 講座の実装—

京都大学 高見 佐知

### はじめに

リカレント教育は国の重点施策であり、岸田内閣も「人への投資」を重視し、リスキリング、リカレント教育を推進している。また、「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（教育未来創造会議第一次提言、令和4年5月10日）」においても、その促進は喫緊の課題であるとされている。第一次提言では、日本の課題である「企業が従業員への教育に投資せず、個人も学ばない」傾向の原因として、「時間や費用の不足」に加え、「学び直しの成果が評価されない」ことが報告され、その解決策として、誰もが生涯にわたって意欲を持って学び続けるための支援や環境整備の推進が示され、「大学講座等で学び直し、好成績を修めた従業員に適切な処遇を行う企業への支援等」の施策が挙げられている。

京都大学学際融合教育研究推進センターに所属する地域連携教育研究推進ユニットでは、教育分野において中核を担う人材の「リスキリング、リカレント教育」について、2017年に社会人を対象として、「京都大学私学経営アカデミー」を開講し、文部科学省の職業実践力育成プログラム（BP: Brush up Program for professional）の認定を受け、継続して取り組んできた。本プログラムは、一年間のコーホートを形成する形態で実施しており、2017年度の開講当初には講義はすべて対面方式であったが、現在はハイブリッド方式により実施している。

また、本プログラムの特徴としては、教育分野において ICT を利活用して深い学びを推進できる人材の育成を図るために、開講当初より、LMS(Learning Management System)に関する単位を、重点的に配置してきた。2022年度には、さらに時代の要請と全国に在住する受講生のニーズに対応するために、LMS 講座の内容に、オンラインプラットフォームの一種である Canvas<sup>1</sup>をプログラムの一部に取り入れて実装し、オンライン上における学びのコミュニティの充実を図った。本稿では、リカレント教育において Canvas を活用した事例として、その概要を報告する。

### 1 「京都大学私学経営アカデミー」の概要

#### 1-1 「京都大学私学経営アカデミー」の経緯

まず、「京都大学私学経営アカデミー」プログラムの概要を記す。本プログラムは私学経営支援の一環として、経営・管理職人材の育成を主たる目的に、2017年度に開講した。開講には、兵庫県私立学

---

<sup>1</sup>Canvas は、北米の高等教育におけるオンラインプラットフォームの活用において、2018年に Moodle を抜いてシェア第1位となり、現在も Canvas がシェア 34%で第1位、続いて Moodle と Blackboard が各 21%である(北米市場調査、2021)。Canvas はシンプルなインターフェイスながら、ディスカッション機能等を活用して受講者同士のオンライン上での双方向のコミュニケーションを設計しやすく、ハーバード大学教育大学院等をはじめ、海外の教育機関で広く活用されている。

校・中学校連合会、京都府私立中学校・高等学校連合会、日本私立中学・高等学校連合会、人材育成企業、金融機関、学校法人役員、民間企業等の賛同と協力を得て実現したものである。開講当初は、受講生は主として京都・兵庫の在住者で、対面で実施していたが、コロナ禍のため遠隔授業を導入することとなり、結果的に受講生が全国に拡大した。毎年度、新規受講生を募集し、年間を通じて、「アドミニストレイティブ・マネジメント」、「リソース・マネジメント」、「カリキュラム・マネジメント」、「先端的 ICT 利活用」、「教育政策実習（自由選択）」の分野で構成される 120 時間を履修するプログラムである。受講生は、私学経営に関わる中学高等学校及び大学の管理職・教職員をはじめ、国公立大学等の教職員、民間コンサルタント、民間人校長志望者、弁護士等の多分野の専門職者等、多岐にわたっている。

また、本プログラムは、開講当初に文部科学省の職業実践力育成プログラム（BP）に認定されたことに加え、2019 年度からは厚生労働省の教育訓練給付金（授業料の 50%支給）対象講座の指定を受け、2022 年度に 2 回目の更新を経て、現在は 2024 年度まで訓練給付金の対象講座として認められている。また、文部科学省の大学振興課の高等教育政策説明の資料においても、「履修証明取得者が大学の正規課程編入した場合、単位認定が可能な要件を充足する事例」として本プログラムが紹介され（単位認定の可否は大学によって異なる）、2022 年度現在、京都大学内で唯一の教育訓練給付金対象講座であること等、先の提言において、なかなか進まないリカレント教育の解決策として「大学等におけるリカレント教育の強化」が重視される中、リカレント教育の環境向上への貢献を図ってきた。年度を重ねるにつれ、定員を上回る応募者に恵まれ、2022 年度には、定員 50 名に対して、書類選考を通過した 49 名の受講生を獲得している（1 名は選考通過し講座受講資格確定後、事情により辞退）。

## 1-2 「京都大学私学経営アカデミー」のプログラム内容

本プログラムは、4 学期制をとっており、4 月から 12 月の各月 1 回、1 コマ 90 分の講義を、金曜日の夜間に 2 コマ、土曜日全日に 4 コマを受講する。加えて、夏と冬には 3 日間の集中講義が実施される。また、LMS は、概論を「カリキュラム・マネジメント」で、演習を「先端的 ICT 利活用」の分野で扱う。

表 1 「京都大学私学経営アカデミー」のプログラム内容

◆アドミニストレイティブ・マネジメント			◆リソース・マネジメント		◆カリキュラム・マネジメント	◆先端的 ICT 利活用
私学経営論	組織マネジメント 1	組織マネジメント 2	ファイナンス・マネジメント	コミュニティ・リソース・マネジメント		
私学の組織特性	リーダーシップ論(1)	コンプライアンス	資源配分論(1)	ワールド・カフェ	入試改革と高大接続	課題演習(1)
私学法制	リーダーシップ論(2)	ハラスメント・ストレスマネジメント	資源配分論(2)	ポジティブ心理学	高大接続事例演習	課題演習(1)
私学経営史	組織マネジメント(1)	女性教職員のキャリア形成	教育経済計算演習	コーチング(1)	グローバル教育の動向	課題演習(1)
私学法制演習	組織マネジメント(2)	クレーム対応ケーススタディ	ファイナンス・マネジメント(1)	コーチング(2)	国際化加増/深い学び	課題演習(1)
私学経営哲学	マーケティング(1)	量的・質的研究演習	ファイナンス・マネジメント(2)	コーチング(3)	Ud(逆向き設計)理論	課題演習(2)
私学行政の仕組み	マーケティング(2)	エビデンスに基づく政策形成	ファイナンス・マネジメント(3)	コーチング(4)	Ud(逆向き設計)実践	課題演習(2)
進学校の教育	経営論(1)	LMSによるデータ共有	ファイナンス・マネジメント(4)	関係づくりのアプローチ	AIと教育改革	課題演習(2)
総合学園経営	経営論(2)	政策提案・論文作成(1)	財務分析	QFT(質問づくりの手法)	LMS(1)	課題演習(2)
私学経営提案演習	組織分析評価(1)	政策提案・論文作成(2)	統計処理(1)		LMS(2)	◆教育政策実習
私学の経営再建	組織分析評価(2)	海外教育事情(1)	統計処理(2)		LMS(3)	教育政策実習 1
私学経営分析(1)	労務管理演習(1)	海外教育事情(2)	統計処理(3)		LMS(4)	教育政策実習 2
私学経営分析(2)	労務管理演習(2)	政策提案総合演習	統計処理(4)		特別支援教育とエビデンス活用	教育政策実習 3
			資産運用(1)			教育政策実習 4
			資産運用(2)			

## 2 「京都大学私学経営アカデミー」における Canvas による LMS 講座の構築

### 2-1 Canvas による LMS 講座の概要

2022 年度には、表 1 の「先端的 ICT の利活用」の課題演習(1)(2)に位置付けて「Canvas による LMS 講座」を実施した。この節では、その概要を報告する。Canvas は日本においても、東京大学、慶応義塾大学、一橋大学、名古屋大学等で活用され始めているが、大学におけるリカレント教育では、京都光華女子大学と公益財団法人未来教育研究所等が行った「英語による絵本の読み聞かせ講座」(2021)、「LBS(Learning by Storytelling)初級講座」(2022)等があるものの、活用事例はまだ少ない。2022 年度の「私学経営アカデミー」では、毎月一度しか集う機会がない受講生同士の学びのコミュニティの形成と充実を図る主旨により、Canvas による LMS 講座を、夏学期と秋学期に年間 2 回実施した。

### 2-2 Canvas による LMS 講座の実装

夏学期と秋学期に実施した LMS 講座の各内容は、表 2 のとおりである。

表 2 私学経営アカデミーにおける Canvas を活用した LMS 講座の内容

対象講座	講座名	テーマ	最終課題	実施時期	
先端的 ICT 利活用	LMS/Canvas 課題演習 (1)	政策提案・論文作成講座	「教育政策論文の作成」 よい研究課題とは何かを理解し、政策提案・論文作成のプランを策定する	論文作成 プランシートの提出	夏学期 (3 週間)
	LMS/Canvas 課題演習 (2)	QFT (質問づくりの手法) 実践講座	「QFT 実践プランの作成」 QFT の手法に基づいて実践プランを作成する	QFT 実践 プランシートの提出	秋学期 (4 週間)

#### 2-2-1 Canvas による LMS 講座「政策提案・論文作成講座」(夏学期：3 週間)の概要

この項では、夏学期に実施した「政策提案・論文作成講座」(課題演習(1))の概要を示す。

私学経営アカデミーでは、必要単位履修後、希望者は、教育分野に関する政策提案論文を提出し、口頭試問を経てその内容が一定の基準以上を満たしていると認定されれば、「学校経営ディレクター」の資格を、京都大学学際融合教育研究推進センターより授与される。毎年、資格取得をめざして政策提案論文の提出を試みる受講生が多いが、受講生のほとんどは研究者として論文執筆の経験のない実務家層が中心であるため、具体的で実践的な「論文作成」の手法に関する受講生のニーズが高い。また、8 月の集中講義において、各自が研究テーマと検討中の論文構成内容について発表し、アカデミーの教授陣より指導を得る機会もあるため、その発表に向けて段階的に準備に取り組める内容で構成した(表 3)。

【講座名】「政策提案・論文作成講座」

【実施時期】2022 年 7 月 1 日～8 月 31 日(講座概要通知から閲覧可能期限)

【講座主旨】各自の探究テーマを「論文」の作成過程を通して明確にできるよう段階的に支援する。

【構成内容】3 週間のプログラムの各週のテーマと内容(表 3)は次のとおりである。

- ・ week 1 「よい研究課題とは？」—研究の意義と、課題設定の 3 つのポイント—
- ・ week 2 「論文作成過程とは？」—手順をふまえてプランを立てる—
- ・ week 3 「課題設定上の留意点とは？」—自分のプランを振り返る—

表3 Canvas による「政策提案・論文作成講座」のモジュール

週	モジュール内容	ディスカッション
week 1 「よい研究課題とは？」 ・研究の意義を理解する ・課題設定の3つのポイントを知る	1-1 研究の意義とは 1-2 よい研究課題とは 1-3 課題設定のポイント①「研究意義」を明確に 1-4 課題設定のポイント②「非自明性」 新規の研究であること 1-5 課題設定のポイント③「複製は容認される」 1-6 良い研究課題を見つけ明確にするコツ 1-7 ディスカッション	【提出課題】 ・自分の研究課題をシートに記入して提出する。 ・自分以外の受講者2名のシートを見て課題設定のポイントを踏まえた感想を述べる。
week 2 「論文作成過程とは？」 ・論文作成のワーキングサイクルを知る ・手順をふまえてプランを立てる	2-1 論文作成のワーキングサイクルとは 2-2 ステップ1 事実認識と課題意識 2-3 ステップ2 対象(領域)をどう設定するか 2-4 ステップ3 追求課題を絞り込む 2-5 ステップ4 具体的に検証する(検証方法の検討) 2-6 ステップ5 資料を収集し分析をする 2-7 ステップ6 実際に書く(論理的展開の検討) 2-8 ディスカッション	【提出課題】 ・自分のワーキングサイクルを記入して提出する。 ・自分以外の受講者2名のシートを見てサイクルを踏まえた感想を述べる。
week 3 「課題設定上の留意点とは？」 ・留意点を理解する ・留意点をふまえて課題を見直す ・相互にフィードバック行う	3-1 課題設定上の留意点とは 3-2 ①予断の排除 ②先入観による善悪の判断の排除 3-3 ③書く内容の精査 ④事実か意見かの精査(資料や文献について) 3-4 ⑤バックグラウンドリーディング ⑥先行研究の選択 3-5 ⑦仮説の設定 ⑧演繹法と帰納法の選択 3-6 ディスカッション	【提出課題】 ・自分の課題設定上の留意点を記入して提出する。 ・自分以外の受講者2名のシートを見て留意点を踏まえた感想を述べる。

※ 講座は非同期で、個人の都合のよい時間に受講し、個人差があるが各週平均4～6時間のコミットメントを要する。

【「政策提案・論文作成講座」実施後のアンケート結果の概要】

講座実施後に、期日内に回答されたアンケートの集計結果(n=45)によれば、講座全体への満足度を問う設問への肯定的回答は87%、講座内容全般の有益度を問う設問では94%、各受講生の専門分野を深めるための関連度・有益度を問う設問では82%を示した。

また、同時に行った自由記述式の回答では、Canvasのプラットフォームで学んだことに関して、「普段、学生が使っているLMSの管理はしていたが、自分自身で投稿したりコメントを書いたりするのは初めてでとても新鮮な経験だった」「生徒の立場でLMSを経験する機会を得られて、大変だったけれど、とても楽しかった」「このような課題の取り組み方を講座を通して教えてもらい、貴重な学びの経験となった」「ひとりひとりの習熟度が高くなると感じた」「非同期コミュニケーションツールを使っただのディスカッションは大変有意義だった」等、肯定的な記述が多く見られた。

【参考：投稿スケジュール】



## 2-2-2 CanvasによるLMS講座「QFT実践講座」(秋学期:4週間)の概要

この項では、秋学期に実施した「QFT 実践講座」(課題演習②)の概要を示す。QFT (Question Formulation Technique:質問づくりの手法)とは、RQI(The Right Question Institute)が開発した高次の思考力を活用して主体的に思考を深めることができる、問いの手法である。本アカデミーでは、対面講座でQFTのワークショップを実施しており、Canvasによる「QFT 実践講座」ではその内容を発展させて、受講生自身が各自のテーマでQFTの活用を企画・運用する支援ができるよう構成した(表4)。

【講座名】「QFT 実践講座」

【実施時期】2022年9月30日～11月30日(講座概要通知からサイト閲覧可能期限)

【講座主旨】QFT(質問づくりの手法)の7つのステップを深く理解し、各自が探究したいテーマでQFTワークショップを企画し、ファシリテーターとして運用できるよう支援する。

【構成内容】4週間のプログラムの各週のテーマと内容(表4)は次のとおりである。

- ・ week 1 「QFT の概要」
- ・ week 2 「QFocus の設定」
- ・ week 3 「QFT のモニター実践」
- ・ week 4 「QFT プランの作成」

表4 Canvasによる「QFT実践講座」のモジュール

週	モジュール内容
week 1 QFT の概要	1-1. QFT とは 1-2. QFT の7つのステップ 1-3. QFT の質問づくりのルールとファシリテーションのコツ 1-4. QFT の対象と目的を考える 1-5. さまざまなQFocus の例 1-6. QFT プラン: ①対象と②目的の設定 1-7. 振り返りチェッククイズ 1-8. ディスカッション
week 2 QFocus の設定	2-1. QFocus の設定 2-2. QFocus の失敗例から考える 2-3. QFocus の深さ 2-4. 表層にある問いも尊重すべき大切な問い 2-5. 第2週目の課題と「質問づくりのルール」の確認 2-6. ディスカッション
week 3 QFT のモニター実践	3-1. モニター実践について 3-2. QFocus に関する疑問を表出してもらうために 3-3. QFocus 検討シートはシンプルに 3-4. (備考) モニター実践はQFocus 検討のために 3-5. ディスカッション
week 4 QFT プランの作成	4-1. QFT プランの作成(1)協力者の質問文の分析 4-2. QFT プランの作成(2)参考事例の参照 4-3. QFT プランの作成(3)QFocus の推敲 4-4. QFT プランの作成(4)QFocus の最終決定 4-5. ディスカッション

※ 講座は非同期で、個人の都合のよい時間に受講し、個人差があるが各週平均4～6時間のコミットメントを要する。

### 【「QFT 実践講座」実施後のアンケートの概要】

講座実施後に、期日内に回答されたアンケートの集計結果(n=31)によれば、講座全体への満足度を問う設問への肯定的回答は100%、講座内容全般の有益度を問う設問では97%、各受講生の専門分野を深めるための関連度・有益度を問う設問では90%を示した。同時に行った自由記述式の回答では、「これまで対面の学習以外では学習者同士のコミュニケーションが少ないと考えていたが、このようなシステムを使うことでそういった面が改善され、双方向の授業が実現できると思った」「思考を深める手法を実地で学べる機会はなかなかなく、同じ志をもつ他の受講生と学べたことは大変有益だった」

「いかに最小のコストで最大の学びの効果を得られるかが課題だが、この講座はその解決策になると感じた」「投稿は大変だったが、多くの学びがあった」「多くの視点を得て、多くの学びを得られた」等の肯定的な回答が多数寄せられた。

【参考：投稿スケジュール】



### おわりに リカレント教育における Canvas の活用について—今後の課題と展望—

夏学期、秋学期の Canvas プラットフォームを活用した LMS 講座受講後の各アンケート結果を俯瞰すると、Canvas に関する受講生の意識は概ね肯定的であり、特に自由記述欄では、「ディスカッション機能による受講生同士の双方向のコミュニケーションの深化により学びの効果を実感できた」ことに満足感を表す記述が多かった。詳しい分析は今後となるが、特に、本アカデミーのような、受講生がそれぞれの背景における高いコンピテンシーやスキルをすでに持っている社会人である場合は、受講生同士の交流から創出される学びの価値が高く、多様な分野の専門性が協働することによって、新しい発想の創出も期待できる。また主体的な学びの実感は、学ぶ意欲の向上に大きく寄与すると考えられる。

筆者もかつて海外の Canvas によるオンライン講座を受講した際、世界中の教育者と深いディスカッションを通して充実した学びを実現できることに魅了され、その経験が、日本の教育関係者にぜひその機会を広げたいという強い動機となり、今年度の Canvas の実装につながっている。2017年度の開講当初から、海外の大学・大学院のオンライン講座の受講に挑戦したいと希望する現職の管理職・教職員を対象に、公益財団法人未来教育研究所の研究支援を受けて海外講座受講準備ワークショップ等を開催し、サーティフィケート取得の支援を行ってきた。私学経営アカデミーにおいては、2018年度に初めて受講生有志に準備講座を実施した。準備講座を経てこれまでにハーバード大学教育大学院の講座を受講した全員が、サーティフィケート取得を果たしている。そのうちの1名は、その後も海外の大学講座受講に意欲的に取り組み、2022年度現在までの短期間に、QS世界大学ランキング2023のトップ50校の内、48校のサーティフィケート（フランス語のみの、Université PSLを含む）取得に至っている。

Canvas のディスカッション機能の十分な利活用による学びのコミュニティの充実が、学ぶ意欲を喚起し、今後のリカレント教育の推進に大きく貢献することが期待される。リカレント教育のさらなる推進に向けて、成果と課題の分析をすすめるとともに、日本国内のプログラムのみならず、国際交流プログラムにも取り組んでいきたい。最後に、このたびの Canvas を活用した LMS 講座の実装については、公益財団法人未来教育研究所、公益財団法人大阪産業局ソフト産業プラザ TEQS、株式会社デナリパム、株式会社ゼノン、有限会社関西教育考学に、ご支援とご協力をいただいた。心より感謝申し上げます。

## **Utilizing the Canvas Platform in Recurrent Education: The Case of Kyoto University Educational Leadership Academy for Administration of Private Universities, Colleges and Schools**

Sachi TAKAMI

This paper focuses on utilizing the Canvas in order to enhance the learning community for Kyoto University Educational Leadership Academy for Administration of Private Universities, Colleges and Schools. Canvas, which is one of the online LMS (Learning Management System) platform, is the most prevalent LMS platform among higher education in the US and Canada. However, it has not been highly recognized in Japan yet.

This KU Educational Leadership Academy is a recurrent program for educators, consisting of 120 hours' lectures and workshops on 5 educational fields: administrative management, resource management, instruction and curriculum management, promotion of ICT use in education, and fieldwork for educational policy practice. Launched in 2017, the Academy focuses to prepare educators being capable of managing and utilizing LMS effectively from the beginning. The Academy has introduced a variety of LMS platforms in the program every year, and started the Canvas in 2022.

In the program of 2022, cohort took two classes on Canvas: one was a 3-week summer course and another was a 4-week fall course. According to the survey after taking the courses, satisfaction rate showed 87% for the summer course, and 100% for the fall course. In the additional comments section, many positive responses were received: most of them were related to how the two way communication among members enabled them to realize their deep learning. In order to contribute more to recurrent education, further analysis is necessary for finding factors for effective Canvas usage.